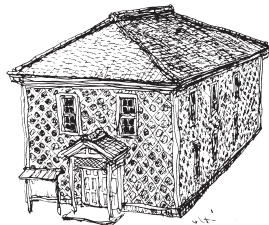


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ・デイベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、1875（明治8）年に開館した日本最初の演説会堂です。

●メディアデザイン研究科委員長

みなみざわこうた
南澤孝太

Design by Action —— 未来創造を实践する

メディアデザイン研究科、通称KMD (Keio Media Design) は、慶應義塾創立150年記念事業の一環として2008年4月に開設されました。デザイン・テクノロジー・マネジメント・ポリシー（政策）の4つの専門性を柱に、多様な国籍・年代・専門性を持つ学生たちが協働し、産業界・行政・国際機関・当業者・市民など学外のステークホルダーとの共創に基づく社会実装志向の研究活動を行う「リアルプロジェクト」を通じて実践的な経験を積み重ね、国際的な場で活躍し未来を創造するメディアイノベーターとなる——このような理念を掲げて開設されたKMDには現在、35カ国からさまざまなバックグラウンドの学生が集い、学生の3分の2が留学生となっています。授業や研究活動の多くが英語で行われており、慶應義塾の中でも特に国際性の高い大学院として活動しています。

このたび、開設以来18年間にわたり研究科委員長を務めた稲盛正彦の後任として、2026年4月より研究科委員長を引き継ぐにあたり、KMD2.0と称して次世代のKMDの構想を進めてまいりました。

(1) 入試・授業の完全英語化

春入学と秋入学で分離していた入試・授業の言語を統一し、年間を通じて国籍を問わず学生を受け入れ、日本人学生と留学生が分け隔てなく協働できる環境をさらに強化します。

(2) 教員の世代交代と新たな研究分野への展開

開設以来の核であった「デザイン思考」や「インターネット技術」が社会に広く浸透したことを踏まえ、次の20年を見据え「サステナビリティ」「量子インターネット」「次世代エネルギー」「科学技術倫理」などの最先端の分野に実践的に取り組む若手専任教員を迎え、新たなリアルプロジェクト群を立ち上げました。

KMDは「出島」のような場所です。日本人学生にとっては、世界の潮流に身を置き、多国籍の仲間たちとの協働を通じて、国際的に活躍するための実践力を身に付ける場として。留学生にとつては、日本の技術・文化・思想の最前線に飛び込み、新たな価値観と未来への可能性に出会う入り口として。「変化」を愛するKMDは、これからも自らをアップデートし続けます。